

製品名: MPP1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87346**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	Calculated MW:52 kDa; Observed MW:55 kDa

抗原情報

遺伝子名	MPP1
別名	MRG1; PEMP; AAG12; EMP55; DXS552E
遺伝子 ID	4354
SwissProt ID	Q00013
免疫原	ヒト MPP1 の合成ペプチド

背景

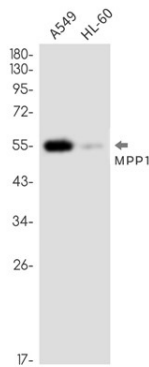
この遺伝子は、膜結合型グアニル酸キナーゼ（MAGUK）ファミリータンパク質のプロトタイプをコードしています。MAGUKは細胞

骨格と相互作用し、細胞増殖、シグナル伝達経路、および細胞間接合を制御します。コードされるタンパク質は、PDZドメイン、Srcホモロジー3 (SH3) モチーフ、およびグアニル酸キナーゼドメインを含む、広範囲にパルミトイル化された膜リン酸化タンパク質です。この遺伝子産物は、様々な組織および細胞種において様々な細胞骨格タンパク質および細胞接合タンパク質と相互作用し、細胞形状、有毛細胞の発達、網膜の神経パターン形成、および非赤血球系細胞における頂基底極性および腫瘍抑制経路の制御に関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見出されています。[RefSeq 提供、2009年10月]

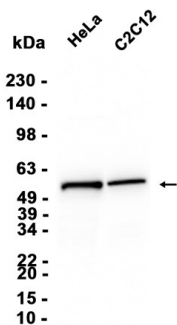
研究分野

-

画像データ



MPP1抗体 (1:1000 希釈) を使用した A549、HL-60 細胞溶解物中の MPP1 のウエスタンブロット検出。



AMRe87346 を 1:1000 で使用して HeLa、C2C12 細胞抽出物のウエスタンブロット分析